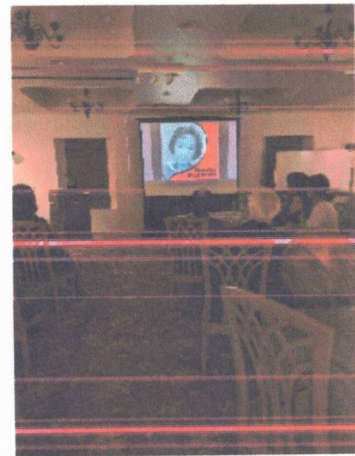


第43回タンゴ音楽の集い 開催

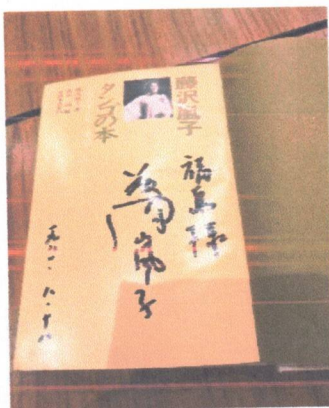
阿部 和子

桜もほころび始めた3月21日(金)夕方6時半より、第43回タンゴ音楽の集いが銀座ブロッサム ローズの間で開催されました。プレゼンターは、名解説とトークで毎回大好評を博しております当協会理事の飯塚久夫氏です。

今年度に入り、「ファン・カナロ来日70周年」、「キンテートリアル初来日60周年」を取り上げてきましたが、今回は「藤沢嵐子“南米凱旋60周年”にちなんで」と題して、藤沢嵐子初期の録音と1964年訪亜時の録音・録画を中心に解説がありました。ブエノスアイレスのテレビ番組で「オルケスタ・ティピカ東京～藤沢嵐子と阿保郁夫」として出演しました。



さらに、日本タンゴを引き立てた楽団の演奏と現代曲も見事に歌いこなした嵐子の歌の数々が紹介されました。



途中で、1964年嵐子訪亜時に、アルゼンチンに駐在で送迎に関わられた会員の福島 穆さんから、当時のコメントもあり、一層盛り上がりました。

リアルタイムのタンゴ演奏とはまた質を異にした感動を覚えた時間でもありました。

どうぞ次回の「タンゴ音楽の集い」をご期待ください。

(当日のプログラム、キーワード添付)

(あべ かずこ：当協会業務執行理事)

<藤沢嵐子“南米凱旋60周年”にちなんで>

飯塚 久夫

1. タンゴの夜明け
2. 藤沢嵐子の登場
3. オルケスタ・ティピカ東京～ブエノスアイレスへの旅立ち
4. 万博とオリンピック
5. ビートルズ来日とタンゴの夕焼け

1964年訪亜時の録音・録画から

6. 君なくて QUE FALTA QUE ME HACES (M.Caló-A.Pontier-F.Silva) M.Caló
7. 夜のプラットフォーム PLATFORMA DE LA NOCHE (服部良一～奥野椰子夫)
8. ママ私、恋人が欲しいの MAMA, YO QUIERO UN NOVIO (R.Collazo-R.Fontaina)
9. ブエノスアイレスのテレビ番組(オルケスタ・ティピカ東京～藤沢嵐子&阿保郁夫)

嵐子初期の録音とオルケスタ・ティピカ東京の発展

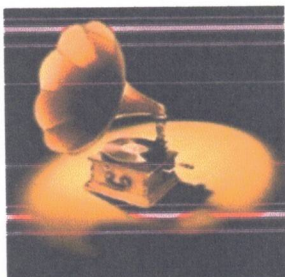
10. 熱情 PASIONAL (J.Caldara-M.Soto) (1953)
11. 祈り PLEGARIA (E.Bianco) (1952)
12. 愛情 CARIÑO (F.Canaro-J.Gonzalez Castillo) (1953)
13. ママ・ピエハ MAMA VIEJA (L.Bayardo-J.Arienzo)
14. ボンボンシート BONBONCITO (A.Romano-J.Cerioti-L.Caruso)

日本タンゴを引き立てた楽団

15. ラ・ムール・オリエンタル L' AMOUR ORIENTAL (桜井潔)
サクライ・イ・ス・オルケスタ (1939)
16. S.Y. (世界的大ヒット曲) 坂本政一とオルケスタ・ティピカ (阿保郁夫) (1966)
("Chateau Madrid" NewYork)
17. ダリエンソに捧ぐ (島昭彦) 西塔辰之助とオルケスタ・ティピカ・パンパ (1960)

現代曲も見事に歌いこなした嵐子

18. スール SUR (A.Troilo-H.Manzi) (1961)
19. 最後のコーヒー EL ULTIMO CAFÉ (H.Stanponi-C.Castillo) O.T.Tokio (1968)
20. チェ・バンドネオン CHE BANDONEON (A.Troilo-H.Manzi) O.Tripodi (1981)
21. チキリン・デ・バチン CHIQUILIN DE BACHIN (A.Piazzolla-H.Ferrer) (1982)
Piazzolla en Japon
22. カミニート CAMINITO (J.De Dios Filiberto-G.C.Peñarosa) (Luis Alposta)



<キーワード>

- 不世出のタンゴ歌手～藤沢嵐子（大正14年7月21日生まれ）
- 早川真平（大正3年大阪生まれ）とオルケスタ・ティピカ東京（1949年結成）
- 東京音楽学校（芸大）では芥川也寸志と同級生、歌手よりピアニストに憧れ
- 芸大卒業？者がタンゴ歌手になったワケ
- 昭和22年満州から引き揚げ、第3人を食べさせるためのガムチャラ
- 48年、原孝太郎と東京六重奏団で歌い、49年ラジオ初出演
- 50年、オルケスタ・ティピカ東京との初共演（NHK「きらめくりズム」）
- 50年、オルケスタ・ティピカ東京との初ステージ（日比谷公会堂）
- 嵐子と早川との出会いと恋？と波乱の結婚
- 早川“親分”の行状と嵐子の思い
- 53、54、56年の訪亜と熱狂的歓迎
- ペロン大統領（“エビータ”の夫）主催コンサートでの大反響
- 64年、中南米各国公演（日本の楽団初の海外コマーシャル・ベース公演）
- 71年、ステージ引退と80年の復活のワケ
- 82年、アストル・ピアソラとの共演
- 90年、ファイナル・ステージと最高潮下での隠遁
- 日本でのかつてのタンゴ・ブームの時代と今日の新タンゴ・ブームの若者たち